

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	シュレレ大有志石巻支援を風化させない会
支援対象者・エリア	宮城・福島
企画開催地	東京・宮城・福島
企画名称	息の長い石巻地域復興、不登校・ひきこもり支援
実施期間	2020年4月～2021年3月

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

3.11 から月日経つに従い、あれほど関心を集め多くのボランティアが活動をした被災地支援が下火となってきました。しかし、被災地では復興が終わっていません。東京に住む私たちができることは限られていますが、できることがあります。私たち自身が自分たちにできることを意識し、被災地の人たちとつながって望まれることを行い、この人たちの声を東京で周りの人たちに伝えていくことが必要であると考えました。2011年に被災地支援で出会った石巻市雄勝町の立浜は集落も少なく、支援が届きにくい地域です。そこで「私たちが忘れられてしまうのが怖い」という声を聴きました。私たちは不登校、ひきこもり支援に長年当事者性を持つ形で携わってきています。被災地では不登校、ひきこもりの人が震災以来増えています。石巻での地域復興支援と不登校・ひきこもりに関する情報や経験を支援する計画を立てました。

しかし、コロナ感染により、石巻地域での地域支援(漁業支援)は高齢者が多く参加するものでコロナの感染拡大が懸念される状況では中止せざるを得ませんでした。郡山と気仙沼で不登校・ひきこもりの親の会、チャイルドライン、フリースクール(子ども・ボランティアを含む)、若者のいきかたづくりの団体運営者と交流し、経験の共有、体験や活動の紹介をおこないました。郡山や気仙沼でもコロナで押さえつけられるような緊張感やそこからくる疲れの話も聞きました。しかし、切実だったのは、増え続ける不登校やひきこもりの人たちに対応するNPO等がその分だけ増えることが難しく、手いっぱい状況です。支える活動をしている人たちは十二分に工夫をして社会に理解を求めたり、社会からの支援も得ようと努力をされています。しかし、社会の理解や支援が不足していて当事者も支援者も困っている状況でした。その中でも擦り切れないようにつながりを持ちつつ努力をされている方々の姿勢が印象的でした。



郡山での不登校・ひきこもりなどのNPOの主催者たちとの交流会

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。